

1 意見募集の結果

- (1)意見募集期間 令和6年1月9日(火)から令和6年1月31日(水)まで
 (2)周知方法 本庁舎、伏木・戸出・中田・福岡支所での縦覧、市HP、市SNS(Facebook、X)、市広報誌(市民と市政1月号)
 (3)意見数 ・計画に関するご意見 15件、その他に関するご意見9件(8人) (応募方法内訳 電子申請:3人、メール:1人、FAX:4人)

2 ご意見への対応及び考え方、計画への反映等

No.	該当頁等	年代	ご意見の要旨	市の考え方・計画への反映等
1	23頁 ・課題	70～ 79歳	・「生産年齢人口の減少などの影響による介護人材の不足」とあるが、介護人材の不足は現在も非常に大きい課題であるので、「恒常的な介護人材不足、離職予防の対策」と入れるべきでは。	ご意見も踏まえた計画の策定を行っています。 ・現在も介護人材は恒常的に不足しており、大きな課題であると認識しています。 ・デジタルの推進で、介護現場の業務効率化による負担軽減が図られ、さらに職場環境が改善されることで離職防止にもつながると考えます。
2	23頁 ・デジタルの推進	70～ 79歳	・デジタルの推進が人材確保になるとは思えない。介護事業所などの現場が余裕を持って(介護の仕事の社会的評価を高め)高齢者と関わり、やりがいのある報酬をもらうことが必要だと思う。	・また、介護サービス事業所と連携して、介護現場の声を取り入れながら、介護職場の魅力を発信し、イメージアップに取り組みます。 ・さらに、高齢者向けアプリを通じてシルバー人材センター等と連携し、介護事業所とのマッチングを行い、介護人材の確保に取り組みます。 (55頁記載)
3	29～31頁 ・eスポーツ	70～ 79歳	・なぜ「eスポーツ」なのか。それなりの設備も必要なのではないか。高齢者福祉にいきなりeスポーツは今はどう思う。	ご意見も踏まえた計画の策定を行っています。 ・eスポーツは介護予防に効果があるとされており、高岡市老人クラブ連合会では、令和5年度からモデル地区7地区でeスポーツ機材を購入し、定期的に公民館等でeスポーツを実施しています。本計画においては、老人クラブ連合会で購入した機器を活用し、通いの場等での自主的なeスポーツ実施を推進しており、誰でも気軽にeスポーツができる体制づくりを支援します。併せて、高齢者以外の子どもなどの参加につなげ、地域内の多世代交流の場を創出していきます。 ・また、介護予防・フレイル予防のための施策については、同ページに記載のとおり複数の方策を想定しており、自分に合った方法を選択し、健康づくり・フレイル予防に取り組んでいただきたいと考えています。
4	38頁 ・医療、介護の連携	60～ 69歳	・今後在宅での看取りが当たり前になるよう、医療・介護・看護の連携強化を望む。	ご意見も踏まえた計画の策定を行っています。 ・38頁 基本的な方向Ⅱ 基本施策1-(2)「医療、介護の連携強化」の中でも記載していますが、令和6年度から、市が主体となって、医療・介護等の多職種と一緒に医療や介護の連携推進等について検討する協議会やワーキングを立上げ、現場の声を聞きながら、検討を進めてまいります。また、医療・介護等の専門職、行政がつながり、情報共有できる多職種連携システムの活用を促進し、医療・介護等の専門職が迅速につながり、必要な支援を提供できるよう推進します。 今後も引き続き、在宅での看取りを望む方に対応できるよう医療・介護の連携強化に取り組めます。

No.	該当頁等	年代	ご意見の要旨	市の考え方・計画への反映等
5	41頁 ・福祉避難所指定	—	・「福祉避難所指定の福祉施設において、平時から避難訓練の中で、避難者受け入れを想定した訓練を行い、有事の際に備えられるよう体制の構築に努めます。」の記載について。 「福祉避難所指定の福祉施設において」の文言がどこに繋がっているのか分からない。「避難者受入を想定」なのか「訓練を行い」なのか「有事の際に備えられるよう」なのか「体制の構築に努めます」なのか、分からない。	計画に反映します。 ・41頁 「福祉避難所指定の福祉施設と市が連携し、避難者の受け入れを想定した訓練を行い、有事に備えた体制の構築に努めます。」に文言を修正します。
6	41頁 ・非常災害時の体制整備・支援	60～69歳	・能登半島地震の発生を受けて、高齢者の避難計画の見直しが必要ではないか。「避難計画を作る。」などを入れるべきでは。	計画に反映します。 ・42頁 ■主な事業・取組に「個別避難計画の策定」の項目を追記します。 （【個別避難計画の策定】災害時に避難支援が必要な「避難行動要支援者」の個別避難計画の策定について、今後も自治会、民生委員・児童委員などのご協力のもと、推進していきます。また、「避難行動要支援者」にとって、より実効性のある計画となるよう、医療・保健・福祉の専門職との連携・協力を図っていきます。）
7	41・52頁 ・介護サービス相談員	60～69歳	・介護サービス相談員について、利用者の声だけでなく、職員の声も聞いてほしい。	ご意見も踏まえた計画の策定を行っています。 ・介護サービス相談員は、介護サービス施設・事業所等の職員の状況や思いも聞き取る等、意見交換を通じて、サービス改善等の提案を行い、サービスの質の向上につながる活動を行っています。 ・41・53頁「介護サービス施設・事業所等の職員との意見交換を通じて、サービス改善等の提案を行います。」に文言を修正します。
8	47頁 ・生活支援体制について	60～69歳	・高齢者の一人暮らしが増えており、買い物や病院の受診など不便なことが多々あると思う。通院等の際の交通費の一部を市で負担するなど、高齢者に優しいまちにしていきたい。	ご意見も踏まえた計画の策定を行っています。 ・高齢者の外出時の不便さについては、少しでも改善できるよう、地域の事業所等のボランティアを主体とした外出時の移送前後の支援を行う訪問型サービス（要支援者等へのサービス）について、モデル地区を設定し、これまでの通所型サービスへの送迎に加えて通院にも移送範囲を拡大する予定です。
9	51頁 ・介護サービス基盤整備	60～69歳	・「「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」より、～約15%の方が「特別養護老人ホーム等の介護保険施設」を希望しています。」の記載について。 施設を作れば作るほど介護保険料は高くなる。在宅重視で高齢者を支える仕組みを希望する。	ご意見も踏まえた計画の策定を行っています。 ・第8期計画で、看護小規模多機能型居宅介護や定期巡回・随時対応型訪問介護看護など、在宅生活を支えるサービスを中心に整備を進めてきました。 ・第9期計画では、定期巡回・随時対応型訪問介護看護の整備に加え、2040年等中長期を見据えると要介護認定者が増加し続けると予想しており、一定程度の施設サービスの整備が必要と考えます。 ・また、37～43頁に「安心して在宅生活を送るための支援」について記載しています。
10	51頁 ・人材確保	70～79歳	・「人材確保が必要」と何度か出てくるが、人材確保の項がない。デジタル機器の導入で解決できるとは思えない。介護職の魅力を発信するだけでも不十分だと考える。	ご意見も踏まえた計画の策定を行っています。 ・55頁 基本的な方向Ⅳ 基本的な施策3「人材確保および業務の効率化」の中で、人材確保策について記載しています。

No.	該当頁等	年代	ご意見の要旨	市の考え方・計画への反映等
11	52頁 ・介護サービス事業所の質の確保について	60～69歳	・施設、事業所における視察や監査などを強化し、虐待や暴力がなく健全な施設運営が出来るようにしてもらいたい。	ご意見も踏まえた計画の策定を行っています。 ・施設虐待の予防については、職員を対象に権利擁護の研修会等を行っているところですが、今後も引き続き、虐待予防の強化を図ります。 ・また、全ての介護サービス事業所に対して、虐待の防止に関する措置を講ずるよう、運営基準で定められています。基準に基づく適正なサービス提供が行われるよう、引き続き個々の事業所への指導や制度の周知を行っていきます。(53頁記載)
12	全体 ・高齢者向けアプリ	70～79歳	・「アプリ」について使いこなせれば、高齢者にとって大いに心強いと思う。心強い味方とするには、災害時にも助けになり、使い方に慣れないといけない。 ・スマートフォン、アプリの講習会をしてほしい。特にスマートフォンが苦手なアナログな人が参加しやすいスマホ教室を開いてほしい。	ご意見も踏まえた計画の策定を行っています。 ・高齢者の方の中には、スマートフォン等のデジタル機器に苦手意識がある方が多いことから、地域の集まり等に出向き、アプリを使うことで高齢者の生活がより便利になることや健康づくり・生活に役立てていただけること等を説明し、アプリの普及啓発を図っていきます。 ・また、初心者・中級者向けのスマートフォン講座については以前より、情報政策課にて行っておりますが、アプリの講習会についても、来年度から出前講座を行う予定です。高齢者の方に使っていただけるよう、普及啓発に取り組みます。
13	29頁 元気なときからの健康づくり	70～79歳	・元気な時からの健康づくりについて賛成。スポーツが苦手な人には楽しくやさしい雰囲気広めてほしい。	・計画に対する応援のご意見ありがとうございます。ご意見に沿うように計画を前に進めていきます。
14	30頁 高岡市老人クラブ連合会と連携したeスポーツの普及への支援	70～79歳	・子供たちも含めた、地域内多世代交流の場の創出について賛成。	・計画に対する応援のご意見ありがとうございます。ご意見に沿うように計画を前に進めていきます。
15	41頁 双方向型見守り・避難情報等配信サービス	70～79歳	・「スマートフォンを持っていない高齢者にも防災・災害情報等が届くよう～」とは、具体的にどのような方法があるのか。	・ご希望の方に専用の機器を貸与します。市の防災情報管理システムと連携し、災害情報が発信されると、機器が光り、ボタンを押すとアラート音と災害情報が流れるといったような、高齢者の方にとって操作が簡単な機器の導入を想定しています。

その他計画に関するもの以外(介護保険制度等に関する)のご意見
 貴重なご意見ありがとうございました。いただいたご意見は今後の参考とさせていただきます。
 (介護サービス事業所の運営基準、報酬(加算、サービス利用料)については、国において審議・決定されるため参考意見とさせていただきました。)

No.	該当頁等	年代	ご意見の要旨
1	デイサービス等の送迎について	60～69歳	・デイサービスなどで送迎を行う人について、二種免許取得もしくは最低限の講習を受講した人が運転業務にあたる必要があると思う。マニュアルの作成を事業所に義務付けてはどうか。
2	基準について	60～69歳	・定期巡回・随時対応型訪問介護看護のサービス利用時間の拡大や併設のサービス付き高齢者住宅入居者への夜間の支援も定期巡回で認められているのはいかがなものか。
3	基準等について	70～79歳	・利用者の増加でヘルパーが不足しているが、①その理由は仕事に見合う賃金が少ない、②仕事の社会的評価が低い、③時間が不規則で緊急が多い、④利用者さんの個々の自宅で、個別対応の難しさがあるのではないか。
4	介護保険のサービス利用料について	70～79歳	・年金だけの高齢者には、特別養護老人ホームやグループホームなどは負担が大きく、利用できない。もっと安価な費用で利用できるようにしてほしい。
5	報酬について	70～79歳	・ケアマネジメントの質の向上とあるが、ケアマネジャーが不足している実態が出ていない。介護職員処遇改善加算の対象となっていないケアマネジャーに市独自で月々の収入補助を行うなども有効ではないか。
6	事業所の規模について	60～69歳	・デイサービスの規模について、規模が大きい事業所だと個人へのサービスや目が届かない事が多々あると思われるので小規模の事業所を充実させることが必要だと思う。
7		60～69歳	・利用者の手が届くところに職員がいて、見守り、支援してくれる小規模の事業所が増えるとよいと思う。
8	介護職の社会的認知について	60～69歳	・介護職が社会的に認可されるよう介護の質を上げたい。
9	能登半島地震災害復興に向けて	70～79歳	2度とこうした悲劇、犠牲を繰り返さないために ・立地場所の検証、施設建設のあり方の見直し ・入居者の命を守る職員配置基準の抜本的見直し ・日常的な避難体制と訓練 ・復旧に向けて国・自治体は全面的な支援を ・災害時の介護支援、福祉避難所の役割